残菊物語（1956）

メディア 映画
ジャンル
製作国 日本
色彩 Color
時間 112分
初公開日 1956/04/23

【解説】
村松梢風が二代目・尾上菊之助の人生を描いた同名小説を、依田義賢が脚色し島耕二が監督した。1939年に溝口健二が監督した作品の再映画化。溝口版はモノクロだったが、本作は大映カラー総天然色で製作された。
五代目菊五郎の後継者と目される尾上菊之助は、自分の人気に思い上がっていた。周囲で彼に注意できるのは、乳母のお徳だけだった。菊之助とお徳は恋に落ちるが、厳格な菊五郎夫妻はお徳を解雇。菊之助はお徳を追って家を出てしまう。家を勘当された菊之助は名を変えて芸道に励むが評判は悪く、地方廻りの小劇団に身を置くことに。しかし長い旅の疲れからお徳が胸を病んでしまう。菊之助の芸道は徐々に軌道に乗るが、お徳の病状はますます悪化していた。

【クレジット】
監督 島耕二
製作 永田雅一［製作］
企画 辻久一
原作 村松梢風
脚本 依田義賢
撮影 長井信一
美術監督 伊藤憙朔
美術 西岡善信
音楽 大森盛太郎
出演 長谷川一夫
淡島千景
阿井美千子
三田登喜子
中村玉緒
吉川満子
浪花千栄子
黒川弥太郎
見明凡太郎
伊沢一郎
市川小太夫
市川寿美蔵
嵐三右衛門
沢村訥子

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.